86　誌上発表　『新刊通真子補註王叔和脈訣』の引用書について

水溜　亮一
日本鍼灸研究会

『王叔和脈訣』は，五代（六朝説もある）の高陽生が著したとされる，歌訣形式の脈書である．宋明の間に多くの注解書と重刊本が出て，多大な影響を及ぼした．ただ王叔和への托名などを理由に批判に晒され，いまだ正当な評価が為されていない．本稿では，『王叔和脈訣』を医学史に位置付けるための一助として，注解書の嚆矢である北宋の劉元賓（号は通真子）注本『新刊通真子補註王叔和脈訣』三巻（以下『通真子補註』と略称）の注文中の引用書を検討する．底本には，国立公文書館内閣文庫所蔵・明成化五年刊本（『日本現存中国稀覯古医籍叢書』所収，人民衛生出版社，1999年）を用い，『海外回帰中医善本古籍叢書』第一冊所収本（人民衛生出版社，2002年）を参照した．

底本は五巻本で，巻之三までが『通真子補註』，巻之四と五は劉元賓自作の『新刊補注通真子脈要秘括』が占め，それぞれに劉氏による元祐五年（1090）と熙寧九年（1076）の自序がある．熙寧の序に「余嘗注王叔和脈訣」とあるから，『通真子補註』の成立は熙寧九年以前である．

元祐の序には，注解書を作った動機と引用書について「晩得『王叔和脈訣』，観其詞語，亦甚鄙俗．今之医者，多所誦習．然問之旨趣，則十有十，百有百，未有以知之元者．孰不知叔和之意，皆出於黄帝之書矣．小子不敏，輒因暇日，為之注解．大約多本『八十一難経』及『素問』為詞焉．故注或称経者，即『難経』爾．或曰某論某篇者，即『素問』之篇目爾．二経之中，或無所證，則引他書，以釈其義，若巣氏『病源』之類是也．」とあるが，調査の結果も，注解中の引用書は，序文に挙げる3書のみである．引用条文総数は121条で，その内訳は，「経曰」と表記された『難経』の引用が42条（経文の引用40条，楊注の引用1条，虞庶注の類文1条），「経曰」とあるも典拠不明のものが2条，「楊氏曰」「楊氏云」と記された『難経』に対する楊注の引用が3条，篇名のみ表記された『素問』の経文の引用が43条，「啓玄子謂」とする王冰注の引用が2条，「病源曰」と記された『諸病源候論』の引用が31条であった．以下にその詳細を示す．

諸家注を含む『難経』の引用45条を精査した結果，都合26の難から引用されていることが判明した．最も多いものは，二十四難の6条，次いで三十五難の5条，四難，十四難，五十六難の各3条，十八難，二十難の各2条，一難，二難，九難，十一難，十三難，十五難，十七難，十九難，二十一難，三十六難，三十八難，五十難，五十九難，六十難，六十一難，六十九難の各1条であった．また十九難，二十難，三十一難及び四十二難の楊注が各1条見られた．引用された26の難の内，14の難が，『難経』において脈診を論じる一難から二十二難までのものであった．

王冰注を含む『素問』の引用45条は，15の篇を典拠とする．最も多い篇は，平人気象論が7条，次に多いものが六節蔵象論，蔵気法時論，方盛衰論の各5条，五蔵生成篇，玉機真蔵論が各4条，玉版論要（内2条は王冰注の引用），脈要精微論が3条，腹中論が各2条，標本病伝論，熱論，評熱病論，水熱穴論，三部九候論，霊蘭秘典論は各1条であった．全45条の内の26条が，本書巻一の心臓歌，肝臓歌，腎臓歌，肺臓歌，脾臓歌に見える．

『諸病源候論』の引用31条は，大半が各病證を概説するために用いられ，序文にあるように『素問』『難経』の引用で解釈しきれない内容を補足するものとなっている．

以上の調査結果から，劉元賓はその注解を通じて『王叔和脈訣』と『難経』『素問』との内容的関連性を示すことにより，左右寸関尺診の正統化と五蔵論の補強を意図したと考えられる．『難経』『素問』の引用90条の内の57条が，脈法と五蔵論を述べた巻一に見えることも，このことを証している．